

THE FRONTIER TIMES
Report ①第9回ESD国際交流プログラム
選抜メンバーとして
ドイツ・フランスを訪問鬼頭英都君が大活躍。
国際生として世界の教育の現在を体験。

2019年3月23日から3月29日に開催されたESD国際交流プログラムに鬼頭英都君(6年2組・IBDP生)が参加しました。9回目となる今年度の参加希望者は昨年度の応募者を大きく上回る283名の高校生でした。審査の課題作文は「SDGsのゴール達成に向けて、私にできること」。選出は厳正に行われ、学校や個人が特定できるものではなく、文章だけで選抜され、鬼頭君は見事選出された8名のうちの1人として参加者として決定しました。

プログラムではドイツ ハイデルブルグにあるユネスコスクール International Gasamtshule Heidelberg (IGH) に訪問し、生徒同士で交流会を行いました。鬼頭君はこちらの学校のモデレーターという活動に感心したそうです。モデレーターは学校内で問題が起きると教

師ではなく、生徒が仲裁に入り解決の糸口を共に探します。また教師の悩みを生徒がコーディネートし、アドバイスをすることもあるそうです。鬼頭君は生徒が自発的に様々な問題解決に取り組んでいることに感銘を受けました。相手の視点に立ち、どのように対応すれば相互が納得し、より良い未来を築けるのかというのを真剣に考える大切さを知ったとのこと。

フランスでは、ユネスコ日本政府代表部 特命全権大使 山田滝雄大使への表敬訪問しインタビューを行いました。以前より感じていた疑問を山田大使に聞いてみました。山田大使からは、国際問題においても人間一人ひとりであるため、パラダイムを消し去り、相手の立場に立ち、相互理解をすることが大切だとアドバイスをいただきました。



フランスでは本プログラムの主催である三菱UFJ銀行のパリ支店 支店長 小林史人様から三菱UFJ銀行が行CSR活動の紹介を受け、パリ支店を見学しました。さらにユネスコという英語圏ではない異文化の刺激も受けたそうです。

今回の交流プログラムへ参加した素晴らしい経験を自分自身の将来に役立てられるよう、鬼頭君の更なる飛翔に期待します。

ESD国際交流プログラムとは

日本ユネスコ協会連盟三菱UFJ銀行の協力のもと、ユネスコスクール間の交流促進と持続可能な開発のための教育(ESD)の普及を目的に、高校生を対象に2010年度より「ESD国際交流プログラム」を実施しています。

全国のユネスコスクール加盟校に在籍する、高校1、2年生を対象としており、英語での発表やディスカッションを前提としています。また帰国後、地域や学校においてプログラム参加経験を生かした活動を期待しています。

Feature

海外の大学に進学を決めた
国際生からのメッセージ

夢はみるものではなく、現実のものにすること
医師になり世界をまたにかけて活躍したい!

マサリク大学 望月美穂さん/中高一貫コース 2018年度卒業



マサリク大学の医学部(予備コース)に進学し、世界をまたにかけて活躍する医師になるという夢への第一歩を踏み出しました。進路を決める過程では、国内の大学に進学するという選択肢もありましたが、説明会に参加し、両親や先生方に相談をする中で「英語力を生かして夢を追いかけたい」という思いが抑えられなくなり海外への進学を決意。今は最先端の医療環境のもとで、同じ志を持った世界各国の人たちと一緒に学ぶことへの期待で満ちあふれています。

名古屋国際中学・高校では、さまざまなバックグラウンドを持つ先生との関わりの中で、他者との比較ではなく自分の気持ちに素直になって、やりたいことに向かって一歩ずつ前進することの大切さを学びました。また、IBプログラムの履修も、今後の人生に活かされる有意義な経験になりました。

「夢はみるものではなく、現実のものにすること」大学生活でも、大好きなこの言葉を日々自分に言い聞かせ、必ず夢を叶えたいと思います。海外には日本では学べないことがたくさんあります。後輩の皆さんも、海外の大学に進学するチャンスがあるのなら、ぜひチャレンジしてほしい。親や周囲への感謝の気持ちを忘れずに、夢に向かって突き進んでください。

Masaryk University (Czech)

チェコ共和国第2の都市ブルノで1919年に設立された国立大学。国内屈指の歴史と学生数を誇り、大学名は初代大統領のトマシュ・マサリクに由来。研究志向の大学として知られ、とりわけ理工分野の研究で高い評価を得ている。

2年間、規律正しい生活を送り
ブリガムヤング大学への編入を目指す

LDSビジネスカレッジ 鈴木舜平さん/中高一貫コース 2018年度卒業



私が進学先に海外の大学を選んだ理由は、英語力を向上させたいと考えたからです。中学時代で中国の学校で過ごし、3年間で中国語での授業を理解できるようになった経験から、語学上達の近道は現地でネイティブと勉強に励むことだと実感。アメリカのLDSビジネスカレッジに進学して英語力を磨き、卒業後はブリガムヤング大学に編入して会計学を専攻しようと考えています。

キャンパスがあるユタ州は自然が豊かで治安も良く、志望学科(会計学)も明確だったので、高校2年生の冬には志望

校が決まっていました。LDSビジネスカレッジの入試選抜方式は、TOEFLのスコアと志望理由書の提出。大学の母体でもあるモルモン教の司教と面接も必要でした。最も力を注いだのはTOEFLの点数向上でしたが、合格基準の65点以上をクリアできたのは、IBプログラムを受講した成果だと感じています。また、自ら考え発言するというIBの学習スタイルは、志望理由をエッセイにまとめる上でも役立ちました。

アメリカをはじめ海外の大学に進学するためには、英語力を磨くことはもちろんですが、時間やスケジュールを管理する能力も必要になります。進学を考えている人には、可能な限り早い時期から対策を始めることをおすすめします。

Latter-day Saints Business College (US)

1886年創立のユタ州ソルトレイクシティにある2年制短期大学。会計学(Accounting)などビジネス専攻に加えて一般教養科目をカバーする学部を備え、4年制大学への編入のためのステップアップとして活用する学生が多い。

国際感覚や英語力が磨かれた高校3年間
IB挑戦で進路選択の幅が大きく広がった

セントラル・オクラホマ大学 野中翔太さん/国際教養科 2018年度卒業



私は高校2年生の頃から、卒業後は海外の大学で行動力や決断力を身につけたいと考えていました。また、英語圏の大学であれば英語も同時に向上させられると思い、志望校にセントラル・オクラホマ大学を選びました。学びたい学部(Nutrition, Dietetics, and Food Management)があったことはもちろん、他大学と比較して日本語に触れる機会が少なかったことも大きな理由です。

入試に向けて最も努力したことは、英語力の向上です。外国籍の先生方の授業を受ける機会に恵まれた名古屋国際高校

での3年間は、海外の大学への進学を実現するための英語力を磨く上で、不可欠な時間だったと思います。また、IBDP(国際バカロレア・ディプロマプログラム)に挑戦したことも貴重な経験となり、進路選択の幅を広げ、将来をより明るいものにしてくれたと感じています。大学生活でも高校時代と同じようにチャレンジを続け、自分の経験を最大限に活かせる職業に就くことが現在の目標です。

海外の大学への進学には、情報収集をはじめ事前の準備が重要で、なぜ海外の大学に進学するのか、目標を明確にすることも大切です。留学仲介企業はあくまで補助的な存在と捉え、先生方に相談しながら、主体的に取り組むようにしてください。

University of Central Oklahoma (US)

教員の養成を目的として1890年に設立されたオクラホマ州内最古の高等教育機関。1919年に教員養成大学となり、1991年に現校名に改称され、のべ5万人以上の教員を輩出している。約17,000人の学生のうち留学生数は約1,500人(92カ国)。

きっかけは高2のオーストラリア研修
語学だけではなく、文化の違いも学びたい

復旦大学 金田 瞳さん/国際教養科 2018年度卒業



訳になるという目標に向かって、復旦大学(中国)の国際文学交流学科に進学しました。きっかけとなったのは、高校2年生で体験したオーストラリア語学研修。6週間のプログラムでしたが、ホストファミリーや現地校の生徒からさまざまな単語や英語表現を教わり、滞在期間中に自分の成長を実感できました。帰国後も交流を続けたことで英検2級を取得でき、語学習得には現地が一番だと強く感じました。また、以前から中国文化に興味があったことも、志望動機の一つになりました。

中国語の勉強を始めたのは受験を決めた後でしたが、復旦大学は個々の語学レベルにあわせて細かくクラスが分かれているため、自分のペースで学ぶことができています。現在の目標はHSK(中国政府が認定する中国語検定資格)の6級を取得することです。

ネイティブの先生や多国籍なクラスメイトに囲まれ、生きた英語や異国文化に触れることができた名古屋国際高校での3年間。復旦大学は外国人留学生も多く、講義や日常生活では英語でコミュニケーションをする機会が多々あり、改めて英語の必要性を感じています。海外の大学への進学を目指す後輩の皆さんには、その恵まれた環境を積極的に活用してほしいと思います。

Fudan University (CHINA)

1905年に私立の復旦大学として創立され、1941年に国立大学となる。文系・理系を合わせて17学院(学部)に相当し、69の系、73の専攻科を持ち、1954年に全国最先端の国家重点大学となった中国を代表する総合大学。

HOT! NEWS

①

文部科学省 2019年度
地域との協働による高等学校教育
改革推進事業(グローバル型)を採択

文部科学省は、高等学校及び中等教育学校の後期課程において、各教科等の内容を社会の在り方等と結びつけて深く理解する等、地域の課題を基に体験と実践を伴った探究的な学びを実現するため、「地域との協働による高等学校教育改革

推進事業」を2019年度から開始することになりました。このたび名古屋国際は、魅力あるグローバル人材育成のために、先進的で質の高いカリキュラムの開発・実践、体制整備を進めるグローバル型の指定校になりました。



地域協働推進事業の事業概要

高等学校において、市町村・高等教育機関・産業界等との協働によるコンソーシアムを構築し、地域課題の解決等の探究的な学びを実現する取組を行う高等学校等を、地域との協働による高等学校教育改革推進事業指定校に指定し、質の高いカリキュラムの開発・実践、体制整備を進めます。

名古屋国際の地域協働推進事業(グローバル型)の取り組み(予定)

【研究開発名】

「持続可能なランドスケープの設計～天白川水系から世界を俯瞰する～」



研究開発の概要

グローバル社会においても地域社会との共生を視野に入れ、持続可能な社会の実現に向け、積極的に社会と関わることでできるグローバル人材育成に適した教育環境を構築します。「水」をテーマに産学官を巻き込んだコンソーシアムと生徒を繋ぐことによりグローバル人材として必要な素養の獲得を目指します。